令和５年 12 月１日　令和５年第１回臨時会
副議長選挙に係る所信表明

猪川　護　議員

このたび、一新会、令和会からの推薦を受け、四国中央市副議長選挙に立候補することになった猪川護です。副議長選挙に当たり、所信表明の機会をいただいたことに感謝し、所信を述べさせていただきたいと思います。

来年は、２市、１町、１村が合併して生まれた四国中央市が 20 周年を迎えます。「法皇の山並みと燧灘に育まれた、活力、交流、文化の四国中央都市」として 10 万人都市を目指しスタートしましたが、現在は人口８万 2,000 人まで減少、１年に生まれてくる赤ちゃんも 10 年前に比べ 40％ダウンの 442 名、人口構成においても、０歳から 14 歳までの年少人口が全体の 11％、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が 54％、65 歳以上の老年人口が 35％を占める少子高齢化社会となっています。

また、四国中央市は 18 年連続日本一の紙のまちでもあり、地元産業によってしっかりとした税制基盤が築かれ、豊かなまちとしてのエンジン役も担ってくれております。

しかし、今後５年間で約 5,200 人が定年退職を迎え、新社会人は約 3,700 人、また、20 歳から 29 歳までの層において、転入者より転出者が多く、毎年 400 人余りの人が四国中央市を離れていっています。今後、労働力不足が産業界に大きなダメージを与えることは間違いありません。若者の減少が婚姻数、そして赤ちゃんの数も減少というふうにつながってきます。学生の世代でも、地元高校に進学する比率は 70％を割っています。将来を支える若者にこのまちにとどまってもらうことが今後のキーとなります。

このままでいくと 20 年先には人口が約５万人となり、65 歳以上の老年人口が約５割となります。年間、生まれてくる赤ちゃんは 200 人を切ってしまうという超々少子高齢化のまちになってしまいます。生産年齢人口も約 15,000 人が減少し、日本一の紙のまちにも赤信号が灯ります。

現在、市債残高が 554 億円あり、将来負担比率もワースト２位と厳しい財政状況となっています。20 年後の財政はさらに厳しくなり、空き家が増え、まちとしての機能、サービスレベルがダウンし、活気もなくなっていくように思います。

このような状況を打破し、いろんなものがシュリンクしていく環境下で、魅力ある住みやすい四国中央市に持っていくためには、20 周年を迎えるこのタイミングを節目として、20 年後の四国中央市のビジョンをつくり、コンパクトなま

ちづくりを軸とした政策に落とし込むことが不可欠だというふうに思います。

その中での重点は、将来像として掲げている四国のまんなか、人がまんなかとあるように、人への投資だと思います。子どもの数を増やし、優秀な人材を育て上げる教育や仕組みをつくらなくてはなりません。個人的には人を重点に取り組んでいきたいと思っています。また、議会の副議長の立場としても、市民の付託に応えられる開かれた議会、四国中央市のさらなる発展を目指し、二元代表制の一翼を担う議会機能が十分に発揮できるように、汗をかいていきたいと思っています。

また、副議長という職は、議長の補佐であり、時には代理を務める重責と心得ています。しかしながら、私は３年目の新人議員です。役割を果たすことができるのか、経験や知識不足が否めなく、先輩議員の皆様から見れば頼りなく心配されている方もあろうかと思います。しかし、やる気と思いは誰にも負けていません。議員の皆様のお知恵や協力をいただきながら、全力で議長をお支え、議会のさらなる活性化および期待、信頼される議会となるように尽力していく覚悟であります。

議員皆様の特段のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げて、私の所信表明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。